



平成二十九年

好天、

数多の参拝者で賑わう



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

平成二十九年「丁酉」、皇紀二六七七年、新年を迎えるにあたり、参拝者の列は神門前から第一鳥居まで続く中、新年を告げる太鼓の号鼓と共に神門が開門されると待ちわびた参拝者が一斉に本殿前へ広がった。本殿前、祈願殿、福みくじの各授与所では、それぞれ神職と巫女、巫女見習六十名が応対、神酒授与所ではノンアルコールの甘酒が振舞われ賑わいを見せていた。今回、修復した本殿前の敷石が年末に完成した。真新しい敷石を踏みしめながらのお参りが続き、その流れは朝まで途切れる事無く続いた。

そのような中、元日は晴天で初日の出を迎え、



余滴

秋の当大社神宝館における「宗像・沖ノ島 大宝展」に続いて、元日より太宰府市の九州国立博物館において特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」が開催されている▼当大社からは二四一点の国宝が出陳されているが、前回との大きな違いは同時代の他との比較である。大和朝廷が本拠とした畿内と百濟、新羅、高句麗などの国々が入り乱れていた現在の韓国である▼展示例を挙げると、沖ノ島出土品金製指輪の周囲に、奈良の新沢・千塚古墳出土のものや韓国の王陵出土のものが一堂に展示されている。いづれも芸術的目を奪われるが、更に深く沖ノ島を理解いただくのであれば、これらは神へ捧げられた神宝であるのに対し古墳など死者の副葬品という相違点である▼沖ノ島ほど膨大な量の一級品が、継続的に捧げられた遺跡は他に発見されていない。つまり実証された神に対する祈りの最高例であり、今回の特別展は「国家祭祀とは何か」その祈りの目的は「を、他との比較によって問うたもの」ともいえる。三月五日まである▼展示会場の最後には、構成を担った学芸員の詩が、彼の想いとともに掲げられている。併せてご覧いただきたい。(塚)

いくつもの歴史 いくつもの想い
それらが重なり合って
「神宿る島」は姿を現した
神話に記された島は
いまも変わらず
青い海に浮かんでいる
新たな歴史と想いを重ねながら

大島中津宮の正月

宗像大社中津宮が鎮座する筑前大島は人口約七百名の島であるが、年の瀬が近付くと島外へ出た人々の里帰りで賑わいを見せる。

大晦日には社殿・境内の装飾、福みくじ授与所設営、夜間の初詣参拝者の為の参道電飾等が沖中両宮奉賛会・同翼賛会の方々の奉仕により設えら



遠国を迎える方々

れた。午後五時より神門前で年越大祓式、引き続き本殿にて除夜祭が斎行され、平成二十八年最後の祭儀は納められた。

午前零時、境内に号鼓が響き渡り神門が開かれと参拝者は次々と神前へ進み、祈りを捧げた。

社頭では、正月縁起物等が授与され、神門横の回廊では恒例の「中津宮新春福みくじ授与所」が翼賛会の奉仕により開かれ、宗像農業協同組合大島支店より特別協賛を賜り、新年の福を授かるうと多くの参拝者が詰め寄せた。又、境内では大島巻網船団の宮地丸組・春日丸水産から寒鰯のご芳志を頂き「開運大鰯大根鍋」が奉賛会の奉仕により振舞われ、大島ならではの冬の味覚が参拝者を温かく迎えた。

献上された御初穂や海の幸・野の幸等がお供えされ、歳旦祭を斎行、皇室の弥栄と国家安泰、国民の幸福が祈念された。



新成人

二日の午前十一時には全国に先駆けて成人祭が執り行われた。新成人三名と保護者・恩師の他コミュニティ関係者等多くの方が中津宮へ駆けつけ、島を挙げて新成人を祝福した。また、それを前後して、三十三才、四十一才、四十四才の厄除・晴厄の同年講祈願祭も斎行され、境内では旧友と交歓する人々で大いに賑わった。

三日、午前十一時より元始祭併宗像漁協大島支所の大漁祈願祭が渡邊禰宜奉仕のもと斎行され、国の悠遠の古、元始を偲び、併せて本年の海上安全が祈念された。

また、八日には今年還暦を迎える三十四名の還暦奉養祈願祭が斎行され、祭典後には一ノ鳥居前にてパレード用車両のお祓いをし、島内各所を廻りながらお酒が振舞われ、還暦を祝福すると共に大いに賑わいを見せた。

中津宮正月祭諸祭典斎行にあたり、多大なるご協力・ご協賛を頂きました氏子・崇敬者各位には衷心より御礼申し上げます。

年越しの大祓式・除夜祭 齋行

平成二十八年最後の祭典を恙なく齋行

十二月三十一日大晦日、午後三時より年越しの大祓式、引き続き一年最後の祭典となる除夜祭が齋行された。

寒風さす中、定刻午後三時にはこの一年間の罪・

穢れを祓清め新年を清々しく迎えようと約五百人を越える参列者が参集し大祓式は神門前にて執り行なわれた。

当社においては七月と十二月の晦日に大祓式が

る「夏越の大祓式」、そして一年の罪・穢れを祓い清め新年を迎える為十二月の「師走(年越し)の大祓式」が執り行われている。

定刻、葦津宮司以下神職が神門前へ参進、まず

き、最後に神職が「大麻」にて天・地・人形・罪・穢れを祓い清めた祓物が流れ棄され大祓式は終了した。

引き続き本殿に於いて除夜祭が齋行、この一年

あり、七月を災難消除と豊作を祈

宮司が大祓詞を宣読、続いて奉仕員、参列者各人は

感謝申し上げ、ご皇室・国家益々の繁栄、そして

「切麻」で自身を祓い、ついで所役が「祓物」の木綿(白布)と麻布(麻苧)を八針やはりに取辟とりまき

氏子崇敬者の幸福を祈り平成二十八年の諸祭儀の全てが恙無く納められた。



大祓詩宣読



祓物を取辟く



天・地・人形を祓う



除夜祭

古式祭・鎮火祭齋行

八百余年の歴史

古式祭

十二月十八日早旦、

八百余年の歴史をもつ古式祭が齋行された。

この祭事は新穀を神前



御座の様子



御座の様子



特殊神饌「御菓子」

に供え五穀豊穡を感謝す

る祭典と、奉仕者・参列

者が神々と御膳を共にする

『御座』で構成される特殊

神事で、新米の御飯・海

川山野の幸のほか、江口

区の方により採取された

「ゲバサモ」(学名・

アカモク)や菱餅、

みかんの原種であ

る九年母を竹かご

に入れた、「御菓

子」といわれる特

ており、今年は飛松班の

男性奉仕者が前日より参

籠し、奉仕した。

祭典は小雨降る暗闇の

午前六時、葦津宮司以下

神職が奉仕し、田島・江

口の両区長、当番班長、

置鮎氏子会長等が参列し

齋行され、祭典後、清明

殿にて御座が行われた。

参列者は神様のお供えも

のと同様のお膳、御飯や

田楽、がめ煮、味噌汁を

殊神饌を神前に供える。また御座は地元田島区八班の氏子の当番制となっ

火神の荒びを鎮める

鎮火祭

古式祭終了後、午前十

時より鎮火祭が齋行され

た。この神事は火神の荒

びを鎮め、その災禍を受

けることのないように祈

る神事である。神話では

火神の荒びを水神が「ひ

さご」、埴山姫神が「川

菜」を以って鎮めたとあ

る。祭典においても宮司

栗箸で食し、翁面、神盃などが授与されるくじ引きを楽しみ、神人和楽のひとつ時を過ごした。午前

六時三十分より同十時まで五回の御座が行われ、合計で二二七名が参加した。



鎮火の儀



以下二名の神職がその神話に則り、火打石で忌火を起こし、「ひさご」で水を注ぎ、次に「赤土」「川菜」で覆う鎮火の儀が行われた。

祭典には谷井宗像市長、小山福津市長を始め、宗像福津の消防、防災の各関係者らが参列し、年末年始の乾季、火の気が起こりやすい時期の平穩を祈った。

献米奉告祭 齋行

神郡宗像の氏子より新穀を奉納

新春の一月十三日午前十一時、氏子総代評議員多数の参列の下、献米奉告祭が齋行され、氏子の皆様から寄せられた新穀をこ

神前に献上し、昨年秋の収穫を感謝すると共に、今年の上、齋服を着装して祭典に臨まれ、宗像大神の大前に無事に奉幣詞を奏上、見事に大役を果たされた。

祭典では、氏子を代表して花田和樹氏が奉幣使として御奉仕された。前日

より大社に齋泊、精進潔齋の五穀豊穰、無病息災を祈った。

祭典終了後には、清明殿に於いて氏子会役員

を十年以上お勤め頂いた方の表彰式が行われ、本年は七名の方々に宮司より記念品と感謝状が贈呈され、参列した氏子会関係者から温かい祝福をうけた。その後「鏡開き」が行われ、直会として皆で雑煮、ぜんざいをいただき、新しい一年を清々しく過ごすことができると大社を後にした。



氏子奉幣使

花田 和樹氏 (勝浦地区)

宗像大社氏子会永年勤続者表彰

- 置鮎玄二郎氏 (津屋崎地区)
- 豊福 一敏氏 (大島地区)
- 河辺 邦明氏 (大島地区)
- 吉田 信喜氏 (岬地区)
- 占部 哲生氏 (岬地区)
- 山崎 正月氏 (東福岡地区)
- 後藤 正典氏 (青葉台地区)

九州国立博物館・特別展のご案内

宗像・沖ノ島と大和朝廷

Sacred Islands of OGIKOSHIMA in Munakata Region and the Yamato Imperial Court

九博と交差する日本神話とアジアの歴史

1月1日(日) - 3月5日(日)

九州国立博物館 (大ホール 天満堂)



氏子会 永年勤続表彰

第六六六回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

山々のそのまた奥の山々のそびらに並らぶふるさとの山
作者の故郷は山深い場所なのだろう。山の繰り返し
のリズムが心地良い。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

昭和十六の兵器工廠の同窓会白髪梳かして君と擦れあふ
工廠の同窓会の君は初恋の人か。初句を昭和十六年、
結句へ君と会ひたりに。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

肩車担ぎし孫が豆をまく福は内のみ節分の夜
「福は内」だけの優しい豆まき。二句は結句と時制を
揃えへ肩車で担げる。

宗像市 日の里 石松 弘次

今日ひと日会話せしは幾人と指折り数え眠りに入りぬ
出来た歌だが二句を(会話したるは)とすると調べが滑らかに
なる。

宗像市 多禮 早川 祥三

列島に閣議で決める「土人」居りまず政治家に歴史教育
社会の動きに敏感な作者。二句へで認める下の句
(閣僚に歴史教育すべし)と。

福津市 若木台 山崎 公俊

菊花展、国宝展を訪ふ仲間どつちを先にするかジャンケン
楽しい歌。初句(菊花展と)下の句(どちらが先かジャンケンをする)では。
季節など係りもなく育ちたる母は師走の店頭を飾る
季節に関わらずハウス物が手に入る時代に違和感を
える作者だろう。初句(季節には)。

宗像市 池田 森 龍子

落ちていた一円走ってとどけたとうスタッフさんの両腕の円
作者と(スタッフさん)の景が楽しい。三句は(とどけたと)でいい。

宗像市 宮田 山本 静子

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

若々しく見える漁師は八十八歳どこから来しかと三たび尋ねる
若く見える漁師が記憶は不確かなのが哀しい。三句
は歳を除け(八十八)に。

北九州市 門司区 北野カズミ

手にのせて軽くこぼりなばら色の手帳を買ひて新年を待つ
新年の希望が手帳の色に現れている。初・二句へ手に
持てば軽き。

宮若市 水原 吉崎美沙子

重たげにドレスつかみてお辞儀するアンコールには迷いあるごと
長い曲で疲れた演奏者か。描写が効いて上句に説得力
があるので(迷い)に頷ける。

宮若市 宮田 本田エリナ

窓までも赤や黄色に照り映えてわが家の庭もプチ観光地
紅葉した庭をプチ観光地という見立てが面白い。四
句へ今日のわが庭としては。

宗像市 日の里 大和美由紀

賑はひし案山子祭りであれに似しもんべ姿のかかしに出会ふ
楽しい歌。時制を現在に統一し、初句(賑はえる)三句
(われに似る)に。

福津市 中央 池浦千鶴子

宮の杜に黄色く染まる銀杏の樹松の間にひととき映える
銀杏の木の黄色に目を奪われた作者だろう。すつき
りと詠まれている。

◆選者詠

開眼後にじふはちねん香煙に福岡大仏お顔くろろずむ
筋解の筋の意味知りあらためて見れば長しも東長寺の扉

第六三九回

俳句作品集

宗像市 日の里 石松 弘次
椿咲き一枝折りて供花となす

2月 祭事暦

1・15日 月次祭
午前10時～
高宮祭、第二宮・第三宮祭、
宗像護国神社(1日)
午前11時～ 総社祭 浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)

3日 節分祭
午前11時～ 於=本殿
午前11時30分～ 於=斎館前 豆打ち式

11日 紀元祭 午前11時～

17日 祈年祭 午前11時～

編集後記

一月は行く。二月は行は逃げる。三月は去る▼平成二十九年が始まり、早一ヶ月が経ち二月に入りました。初詣、企業の新年参拝など新年の行事であつという間に行つてしまつた気がします▼二月は他の月より日数も少なく、毎年の事ながら逃げるように毎日過ぎて行くように思われます▼早く過ぎて行つてしまつこの期間を新年度への準備期間として有意義に過ごしたいものです。(黒)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒811-1350 五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (0940)621-3311 (代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神

制作・印刷 ゼネラルアサヒ